

ラオスのこども通信 14号

(1999年6月発行)

1998年報告書



160x180mm x3in '99.5/12

ノ さかむら 1999年



ラオスからアジアの名作を 絵本・紙芝居専門家派遣セミナー

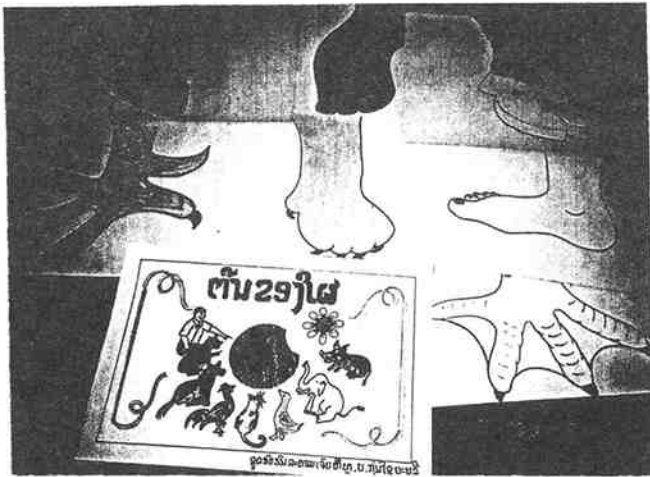
1999年5月7日-5月28日

99年5月7日から28日にかけて、紙芝居・絵本作家のやべみつのりさんと長野ヒデ子さん、そして造形に幅広く携わっている下中菜穂さんの3人を講師とする専門家派遣セミナーを、ヴィエンチャン、ルアンパバーン、ポリカムサイのCCC(子ども文化センター)や小学校で行いました。

最初にヴィエンチャンで、「絵本・紙芝居の冒険—アジアの名作をラオスから」と題して3日間の絵本・紙芝居づくりセミナーを開催しました。絵本づくりに携わる人を対象に、より質の高い作品づくりをめざそうというのが、そのねらいでした。それまで作られた作品の中には、通常のページ展開は見開き(2ページ)で一場面とするところを1ページごとに左右のページがちぐはぐになっていたり、内容面では、空想の話なのか理科の学習なのかねらいがはっきりしないものがあったりで、作品づくりとともに編集能力のレベルアップが求められていたのです。

そこで、セミナーの内容も、編集の基本や印刷のプロセスを学ぶといった企画を立てました。ところが、作品とは作家の感性が生むもので、外からテクニックを注入しようとするのは方向違いではないか、作品の質を追求するのならば作家が作品にどう向きあうかから話を始めるべき、という意見が講師より出ました。議論の結果、今回のセミナーは、参加者同士が様々な作品について意見を述べあい、自らの創作活動について語る中から、いい作品作りに大切なことは何かについて掘り下げ、その上でワークショップを行って行きました。

例えば、環境保護をテーマにした作品に対して、安易なストーリー展開や取材不足を指摘する意見が出されました。また若い参加者が木などを擬人化することの是非を問うと、日常子どもと接している参加者からは、想定する読者の年齢に応じた作品づくりをすべきとの意見が出され、講師からは、自分が近づくためにモノに顔をつけている、



紙芝居づくり。タイトルは「何の足?」。表紙に丸い穴をあけて、その向こうにいる動物の足を当てっこ。何の足かな。でっかく描いたので、まるで大きな獣が現れたように想像力をかきたてられる。

作者がそのモノに命を感じれば顔を描かなくても描いたのと同じ力を持つと語りました。

ある参加者は、不発弾を浴びて入院している子どもに紙芝居をしてあげたところ、そのときだけは痛みを忘れて楽しそうにして医師や看護婦を驚かせたと、紙芝居の持つ大きな力を紹介しました。

参加者は約30名。作家、紙芝居の演じ手である幼稚園の先生、政府の出版担当官、画家志望者、学生など多彩な顔触れで、それぞれの視点から活発に意見が出され、参加者にとって、絵本・紙芝居への理解がいつそう深まったようです。そして絵本と紙芝居のそれぞれの違いについて学び、各自が紙芝居を作って演じ合いました。より深く自分と作品を見つめる中から、アジアの名作が誕生する可能性が感じられたセミナーでした。

その後、ルアンパバーンに場所を移し、サヤブリからの参加者ととも開催。作品づくりは初めてという小学校の先生も多く、紙芝居やおもちゃづくりを行いました。また子どもを対象に、泥絵の具でヒョウタンを描いたり、木の葉を使って魚を描くワークショップを開きました。

ポリカムサイでは、子どもたちと紙芝居やおもちゃづくりをしたほか、ピー(ラオスの人々が信仰している精霊)を描き、迫力のある作品となりました。

最後に、ヴィエンチャン市内のノンニエン小学校で、粘土細工などを行い、すべての予定を終了しました。

ピーの頭が光ってる

やべみつのり

昔は、みんないいピーだった。今は、いいピーと悪いピーがいると聞いた。

ラオスの人々はピーといわれる精霊を信じている。自然のすべてにピーは存在していて人間の生活に様々な影響を及ぼすそうだ。四つ辻や庭にピーを祭った祠をあちこちで見かけた。

今回、セミナーを行ったヴィエンチャン、とルアンパバーンそれにポリカムサイで、パーシーという精霊を呼び寄せる儀式をしていただいた。現地スタッフの方たちがバナナの葉っぱを巻き、それに黄色のマリーゴールドや、白いチャンパー、ハイビスカスなどの花を飾って祭壇をつくる(ぼくは幼い頃、倉敷の小さな寺で過ごしたが、祖母が花祭りの時、花でお釈迦さま祭壇を飾っていたのを思い出した)。中心にローソクを立て、そこから白い糸を取る。お互いの健康や幸福を祈って手首に糸を結びあう。ぼくらの両手首にはラオス滞在中、何十本もの結ばれた白い糸が守ってくれていた。

ルアンパバーンでは、船に乗って15分ほどの「つぼの村」と呼ばれる、やきもの作りの村へ、野性的な子どもたちに魅かれて4日間通った。小さな女の子に誘われてメコンに飛びこむ。泥水と、足の裏に伝わってくる泥の感触がなんともきもちいい。川にはピー・ナム(水の精霊)がいるそうだ。白いパンツは、泥色に染まった。

ヴィエンチャン郊外にあるノンニエン小学校には校庭の真ん中にそびえる菩提樹が在る。小学校になる前、お寺だったそうで、この樹にはピー・マイ(木の精霊)が宿っていると恐れられていたと聞いた。

ポリカムサイのCCCに集まった60人ほどの子どもたちに「ピーの絵をみんなで描きませんか」と話す。表情が生き生きする。ラオスの手漉き紙に水彩、クレヨン、フェルトペンなどで合作してもらった。目に見えないピーを、創造力豊かに表現されていく過程に立ち合っただけで感動した。

ドゥアンドゥアンさんの農場を長野さんと訪ねた。夜、三人で散歩した時、群れて飛ぶ蛍を見た。何年ぶりだろうか。神秘的な光を目で追っていたら「ピーの頭が光っている」とドゥアンドゥアンさんが言われた。今、ピーと出会っているんだと思うと胸が熱くなった。

ルアンパバーンの土を画材にした、下中菜穂さんと子どもたちのワークショップ

ルアンパバーンの
手すき糸は、どっしりしていて、
土の糸の具を指でこすりつけた
描く方法をしっかり受けとめて
くれた。

描いた絵を
CCCの白い外壁
にはじめてみんな
でながめろ。
ウーン、エーン。
街の人達も
見にくる。

ピンチアんで
手に入れた
クラフト糸

朝市場でみつけた
トウガン2つ。
と、ハビラリ。
これがモデル

ラオスの土の色
に近い、コンテ2色
と黒い炭色のコンテ。

Yムカム
とかくする用
のです。

「何か、すりつぶすものありませんか？」
とごってきたのが。このすり鉢本。
「すく！」ラオスの生活必需品なん
だなあ。
これで、土を糸でかくすりつぶして、
水とボンドをかき混ぜ、絵の具を作った。
「画材がない」ではなく「画材を見つけて
つくる」からはじめる。

市場はもう本当に素敵だ。
こっけいほんとの生活を見ている子
供達。目と体はスゴイ！次々といろんな
果実や野菜を描きだした。今度はもっとうりつきあいたい！
市場はこどもたちとも。

by Wabo, Shi

メコンの黄色の優しさ強さ。

長野ヒデ子

メコン沿いの小さな「つぼの村」に通った。

オカミさんはロクロを廻し、亭主は粘土を積み上げて大きな壺を創る。ロクロを廻すオカミさんの胸でくるとお尻を出してオッパイを吸って、ものづくりのそばで育った子どもたちは、強烈な個性と野性的なやさしさを持ち、実に輝いている。

観光ではなく、友達になりたいと来てることがわかってもらえたときの互いの喜び。ことばの通じないことが、何とか相手の心をつかみとろうと、目と目で交わす心と心の結びつきを深くした。

子どもたちが小さな苗木に水をやっている。

「木を育てているのね」というと、「違うよ。水をあげると、木から天の精霊に伝わっていくからあげるの」。私は、このことばに魂がふるえた。一本の木や花を神のものとして、ちゃんと見ているんだ。

ラオスは雨季に入り、すごいスコール。全てを洗い流し、体についたものをみごとにそぎ落とす。い

いかげんな魂も見せかけの個性もそぎ落とし、そのものをむき出しにする。こうした中で育った木も草も人も個人的で野性的である理由がやっとわかった。

そしてメコンの川に身を沈めて、その怖さと黄色い土の優しさを知った。アジアの民は黄色人種といわれるけれど、本当は黄色という優しい魂に染められた民ということかも知れない。子どもたちの服も黄色い土の混じったメコンに染まって輝く。人も自然も当たり前のように共存している。自分自身の体で感じとって身につけた強さは、生きることへの真剣さを感じる。そして生活はシンプルであるからこそ味わい深いことも教えられた。

絵本・紙芝居セミナーでは、創作という内面的な問いかけを通じて、新たに何かを生みだそうとするエネルギーが伝わってきた。新しいメディアは魅力的なだけにその中にある文明という野蛮さもしっかりとある。いいと思うことが、本当はそうでないことの方が多いのかも知れないということ問いかけながら、私自身も育ててもらいたい。

1998年活動報告書

ラオス経済のインフレが進行し、通貨キップは大幅に下落しています（98年1月1\$=2,457キップが12月には4,192キップに下落）。物価は上がっても公務員の給料は上がらず、庶民の生活はますます苦しくなっているようです。

* * *

プロジェクトは規模の現状維持を指向しつつも、活動がラオス社会で評価されるにつれ、要請も増えています。今年は東京事務所、ラオス事務所にそれぞれ1名ずつ人員が増強されましたが、事務量はむしろ増え、人手不足が続いています。この1年、東京では、今後の活動をどう組み立てて行くか、頻りに話し合われました。2000年末まではこれまでの「片手間ボランティア」の考え方で合意されていますが、その後はどうするのか、まだ、答えは明確には見えてきていません。

<プロジェクト>

■出版プロジェクト

NGOなどの支援で、ラオスで出版される子ども向け図書が増加していますが、一般の商品のように流通はされず、社会に行き渡ってはいません。また、本の制作に関わる基本的な技術、情報が充分でなく、「質」が満足できる出版物はまだほとんど見受けられません。

そこで会では、量より質を高める方針で臨んでいます。1998年に会がラオスで出版した図書は次の2点のみでした。

●『絵とき辞書』第4版 2,500冊出版、配布
印刷所の機械が故障しスケジュールが遅れましたが、寄付がまとまったこと、ラオス通貨キップの下落などにより、予定より500冊多い2500冊を印刷することができました。11月に3県でセミナーを開き、各校1冊ずつ配布しました。

『絵とき辞書』は累計で12,500部発行されました。配布先：ボリカムサイ県(343冊) カンムワン県(581冊) サワンナケート県(1,251冊) 計2,175冊

●創作絵本『タオカムとつばめ』 3,000冊出版
パンナリー作/コンレー、シースパン共同作画
作者は、会が実施した「絵本セミナー」の参加者で、人材育成の成果が現れ始めています。出版にはキャノン株式会社のご支援をいただきました。

●『ラオスの紙芝居』3巻1組 2,000組出版

ボアワン作「まるちゃんのともし」

ブンルート作「さかなのおんがえし」

トンミー作「いぼがえるとにわとり」

現地作家の紙芝居作品を、初めて日本で出版。日本のメディアでも取り上げられ、アジアの新しい紙芝居の動きとして関心を呼びました。

専門家派遣による「紙芝居づくりセミナー」を1995年から3回実施した成果です。参加者の作品を1年間添削指導し、1998年4月、日本で汐文社から出版しました。日本語とラオス語の2カ国語表記。会が500部買い取り、販売収益でラオスへ300部寄贈しました。日本では保育園、幼稚園、地域文庫などでも子どもたちを楽しませ、他、中学校で国際理解教育の教材としても活用されました。ラオスでは、移動図書館といっしょに小学校を中心に配布しました。

■移動図書館・図書袋プロジェクト

ラオス国立図書館の読書推進運動に協力し、1992年から取り組んでいる移動図書館と、軽量タイプの図書袋に、子どもや村の人々向けの図書を詰めて届けています。「箱」には約150冊収納し1校1箱、「袋」には約70冊収納し1校2袋を配布。同時に、先生に本の利用法、貸出し方法を伝えるセミナーを行いながら配布します。

98年度は、箱・袋を合わせて計160校に配布、総計約22,400冊を届けました。

地域	図書館	図書袋	計
ヴィエンチャン市	36	—	36
カンムワン県	30	—	30
サヤプリ県	26	30	56
シェンクワン県	8	30	38
合計	100	60	160

「移動図書館」は郵政省国際ボランティア貯金、「図書袋」は国際開発救援財団のご支援により、製作・配布・セミナーが行われました。

フォローアップ：既に配布した学校へも、図書の補充、フォローアップを行っています。今年度、96年12月に配布したサヤプリ県の図書館30校、図書袋70校、ルアンパバン県の図書袋30校に対し、利用状況の調査、図書の補充を行いました。利用状況：図書袋が配られていない隣の学校へ、学校間の貸出をして共同利用するケースもありま

す。子どもたちに人気があるのは、ラオスの民話、村人に人気があるのは法律や農業関係の図書。学校でクラス単位の読書の時間を設けたり、教師の数が少ない場合には曜日を決めて図書袋を開いたり、学校ごとの工夫も見られます。配布セミナーが功を奏し、教師たちにも読書活動の重要性が理解されるようになりました。

問題点と課題：図書の数が少なく、子どもたちがすぐに本を読み終えてしまいます。継続的に図書が補充されなければ、読書への興味を持続することが難しくなります。しかし、まだまだ現地で出版されている図書の数が絶対的に少なく、補充する本が十分に確保できません。

■子ども文化センター（CCC）

会では情報文化省に協力し、学校教育では行われていない情操教育の場として子ども文化センターの運営を支援しています。4つ目のCCCが98年1月、ルアンパバーンにオープンしました。

CCCは子どもが主役となる場であり、伝統舞踊や工芸などのラオス独自の文化に親しむ場です。同様の活動をする施設が、会が支援する以外に2カ所開設されるなど、情操教育、自己表現教育に対する社会的関心の高まりが感じられます。

また、会はCCCに経済的「自立」への準備を要請していますが、それを急ぐあまりの弊害も感じられ、今後の展望については、理念の再確認・共有化が求められています。

CCC活動は郵政省国際ボランティア貯金からご支援をいただいています。

●ヴィエンチャンCCC

ヴィエンチャンCCCは、暫定的に会の事務所に移転しました。スペースは狭くなりましたが、日常の管理がスムーズになりました。各種教室活動は土日を中心に行われ、毎日子どもたちに開放されています。

最近ラオスの大学生がボランティアとして参加し、次第に底辺が広がっています。

子どもを通わせている親たちから、子どもが自己表現をするようになった、という声が聞かれます。人前に出るのを恥ずかしがっていた子どもが、「私も歌いたい」と意思表示し、積極的に参加するようになってきました。また、CCCに通わせることでシンナー遊びをしない、危険なところに遊びに行く心配がない、といった評価もあります。CCCが地域社会に根を下ろし始めたひとつの成

果であり、都市化と青少年の問題について考えなければならぬ時期に来ているといえます。

●ポリカムサイCCC

新しい図書室ができて1年。火曜日から日曜日までの毎日、50人程度の子どもが参加しています。土曜だけ音楽教室、伝統舞踊教室、絵画教室、ゲーム教室、昔話教室などを行っています。6～8月の夏休み期間は、国語教室、数学教室など特別なプログラムが生まれ、一日300人以上が訪れます。県の関係者や、親の認知も上がりました。その一方で、スペースが十分でなくなったり、図書室開設時に多くの本が紛失し、現在、効果的に利用されていないという問題点があります。

●サヤブリCCC

98年に専用のスペースを確保し、積極的に活動しています。300人の子どもが登録し、平日は夕方方に教室を開催して40～50人が参加。土曜日は朝から夕方まで200人が活参加しています。隣接する体育館を利用し、学校の教科にないバレーボールやサッカー教室を開催しています。様々な教室に参加希望者は多く、受け入れきれない状態で、県ではさらに大きなスペースを物色中です。問題は図書室の利用状況が今ひとつであること。6ヶ月間で860人が利用し、1,211冊を貸出したとのことですが、十分とは言えず、読み聞かせの充実、本の補充など、活性化の必要があります。スタッフは熱心で、活動を県内の他地域にも普及させようと、自主的な活動を続けています。活動資金を補うため、市場からバナナを仕入れ、庭先で乾燥させて、市場で売るなど、積極的です。

●ルアンパバーンCCC

かつての放送局のスタジオを改造して98年1月にオープン。町の中心に位置し、市内25のすべての小学校から子どもたちが通っています。平日の教室は4～6時、歌、絵画、お話、織物、ラオ語ゲーム、編み物、伝統舞踊、伝統音楽、英語などプログラムが日曜日以外毎日、組まれています。王都として歴史が古い町だけに文化活動に対する関心、理解が深く、以前から教育委員会が地域の学校に伝統音楽を教える先生を巡回派遣してきたなど、着実な活動が期待できます。歌のコンクールを開催したところ、150人の参加があり、地域での存在を確かにしています。

■学校図書室整備プロジェクト

空き教室を利用して、本棚・机・椅子と図書を整

備し、図書室を開設するプロジェクトです。開設の要請が増え、応じきれない状態です。熱心な学校では、授業に取り入れたり、地域の他校生に開放し、成果を上げています。

[学校図書室の新規開設]

今年度は当初4校の計画のところを、8校の整備をすることができました。

- NO26 ノンブアトーン小学校 (ヴィエンチャン市)
- NO27 シーカイ中学校 (ヴィエンチャン市)
- NO28 ノンサヴァン小学校 (ヴィエンチャン市)
- NO29 青少年センター (ヴィエンチャン市)
- NO30 ナムルンワッタナムソパオ学校 (ルアンパバーン県)
- NO31 ナムバック中学校 (ルアンパバーン県)
- NO32 ポンサワン小学校 (サヤブリー県)
- NO33 テッサバーンムアンクン小学校シエンクワン県)

各図書室には、会が出版した図書など160タイトル、約400冊を提供しました。ラオス語の図書は出版点数が少ないため、タイ語の本、ラオス語の翻訳を貼った日本の本も入れています。図書箱と同様、教員向けセミナーを開催。図書の補修用の材料や文具、画材なども配布しました。

学校図書室整備プロジェクトは、外務省NGO事業補助金より支援を受けています。

[フォローアップ]

95～97年に開設した25か所の図書室と会の子ども文庫に対し、各校から出されたリクエストを基に1校100タイトル約150冊補充しました。

フォローアップは、(財)伊藤忠記念財団「子ども文庫助成金」の支援を受けています。

[子ども文庫の整備と図書の補充]

現地事務所の「子ども文庫」は、98年度、より快適に本が読めるようにするため、本棚2台、机2台、椅子10本を整備し、蔵書を増やしました。このプロジェクトは、(財)伊藤忠記念財団「子ども文庫助成金」の支援を受けています。

■会の運営

●東京事務所

◆6月から専従スタッフとして小川直美が参加。本年度もアユス(仏教国際協力ネットワーク)から赤井の活動に経済支援をいただきました。

◆7月30日～8月8日、第2回スタディツアーを実施。17名が参加し、ポリカムサイCCCでの運動会やホームステイなどを体験しました。

◆8月16日、総会を実施。20余名の参加を得、現地活動の自立に向けラオスでの人材育成を強化していくことなどを確認。また、団体名を「ラオス

の子供に絵本を送る会」から「ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会」に変更しました。

◆土曜日をボランティア活動日とし、ボランティアが参加しやすくなりました。スタディツアー参加者を中心に、イベントへのボランティアは増加し、今後の活動への参加が期待されます。

◆現地調査、活動調整、ツアー引率などでメンバーを現地派遣。

～2月：赤井

6月：野口

8月：チャントソン・森・小川

11月：小川

この他、地球環境基金海外派遣研修ラオス視察コース同行などでチャントソンが、(社)国際建設技術協会によるヴィエンチャン市「子ども文化センター」建設プロジェクト準備作業支援で野口が視察、調整を行いました。

◆活動の質を高めるため、マネジメント能力や専門性、語学力の向上が重要な課題です。また、経済的安定のため、自主財源の開拓、対外的な積極的な働きかけが必要なことが認識されています。

●ラオス事務所

◆4月から現地事務所責任者としてソンペットを本採用し、ヴィエンチャンCCCのASPB事務所同居により8月からCCCスタッフのチャンシーをCCC担当スタッフとしてASPBに移籍。専従5人体制になりました。また、電子メールを導入し、東京との連絡を緊密にしています。

現地事務所スタッフは意欲的に業務に携わっています。しかし英語力、教育分野の専門能力の向上は今後の課題です。現地スタッフが自主的に判断して活動を運営する能力をつけていくことが求められています。



1998年度会計報告

1998年度 ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会収支計算書(1998.1.1~1998.12.31)

■前期より繰越	3,000,000円	3,220,596円	プロジェクト準備金
■収入の部	予算	決算	摘要
一般寄付	5,000,000円	2,950,913円	延べ341件
			加アチスト出雲 100,000円
			自治労町田市職員労働組合 100,000円
プロジェクト援助金	16,000,000円		
			郵政省ゆうてい貯金 5,826,000円
			国際開発救援財団 1,945,000円
			アース(仏教国際協力ネットワーク) 1,800,000円
			外務省NGO事業補助金 1,600,000円
			伊藤忠財団 1,000,000円
			地球市民財団 910,000円
			国際建設技術協会 726,000円
			株式会社興伸 1,746,335円
助成金・指定寄付(団体)		15,553,335円	
指定寄付(個人・団体)			
絵とき辞書寄付		102,800円	延べ25件
図書箱寄付		206,800円	
			106,000円
			グループSEA 100,000円
図書袋寄付		12,000円	
			田島敏子 12,000円
図書室文庫寄付		450,000円	
			東京海上火災株式会社
			東京自動車損害サービス部 150,000円
			豊島福祉基金 150,000円
			村井 浩 150,000円
			2,541,366円
			図書出版寄付
			石原静子 1,000,000円
			うねに環境の絵本を送る会 614,150円
			CIDSE PROJECT(うね事務所) 324,216円
			キヤノン株式会社 300,000円
			稲垣クリニック 300,000円
			他 3,000円
			7件
紙芝居寄付		36,000円	
外貨募金		2,372円	
スタッフ研修費寄付		215,000円	ラオス事務所スタッフ英語研修費
紙芝居売上		881,580円	3冊1組×139セット+4冊(送料共)
イベント収入	3,700,000円		
スタディツアー参加費		2,528,350円	
イベント収入		838,470円	お正月パーティ参加費、コーヒー売上など
雑収入	500,000円		
出版図書譲渡		92,041円	会出版図書有償譲り渡し(うね事務所)
本・絵はがき等売上		344,225円	絵はがき 物品売り上げなど
使用済テレホンカード売却		7,500円	
その他		22,702円	預金受取利息(東京、ラオス)等
収入合計	25,200,000円	26,785,454円	

■支出の部

1. プロジェクト経費

●絵本一冊運動

<出版プロジェクト>

	予算	決算
絵とき辞書 印刷費	1,430,000 円	652,003 円
古典図書 出版費	1,950,000 円	0 円
文字絵本 編集費	130,000 円	0 円
創作絵本 出版費	1,950,000 円	319,353 円
「窓ぎわのトットちゃん」	910,000 円	0 円
紙芝居 出版	910,000 円	1,055,065 円
小計	7,280,000 円	2,026,421 円

第4版改訂編集費・印刷費 2,500冊
99年文字絵本3挿し絵コンクール開催
「タオカムとつばめ」4,000冊
ラオス語訳版出版 99年実施
3冊1組 500セット会分担分買取り

<移動図書箱 図書袋プロジェクト>

移動図書箱製作費	1,365,000 円	1,916,053 円
図書袋製作費	1,560,000 円	1,321,726 円
配布セミナー費	390,000 円	735,066 円
フォローアップ費	130,000 円	49,819 円
補充図書購入費	780,000 円	471,304 円
図書箱・袋プロジェクト計	4,225,000 円	4,493,968 円

箱製作費、箱詰め図書代(1箱各150冊)
袋製作費、袋詰め図書代(1袋各約70冊)
ガイオン市・サブリ県・カムン県等で実施
シェン州過去配付済箱・袋調査費
過去配布済み図書箱・袋への補充用図書

<統括管理>

通信費	156,000 円	195,227 円
出版コーディネーター人件費	91,000 円	100,709 円
プロジェクトコーディネーター人件費	156,000 円	218,254 円
調査・調整派遣費	585,000 円	546,716 円
絵本1冊運動統括管理計	988,000 円	1,060,906 円

当プロジェクト該当分(全通信費の32%)
現地出版専門家7名 1年間
現地プロジェクト調整員 1名
東京から現地出張費 2回 各1名

●子ども文化センター(CCC)プロジェクト

ガイオンCCC運営費	1,105,000 円	626,785 円
サブリCCC運営費	798,200 円	671,717 円
ボリカムCCC運営費	733,200 円	518,646 円
ルアババCCC運営費	798,200 円	708,710 円
図書補充購入費	260,000 円	81,833 円
CCC現地活動調整員人件費	292,500 円	0 円
CCC調整員派遣費	468,000 円	135,169 円
通信費	156,000 円	73,210 円
子ども文化センター計	4,611,100 円	2,816,070 円

スタッフ・指導員人件費、教材費、家賃など
スタッフ・指導員人件費、教材費、など
スタッフ・指導員人件費、教材費、など
スタッフ・指導員人件費、教材費、など
全4ヶ所 図書補充費
ガイオンCCC運営費に含まれる
現地出張1名 6月実施
当プロジェクト該当分(全通信費の12%)

●子ども文庫プロジェクト

図書室整備改修費	130,000 円	87,985 円
子ども図書館建設費		1,200,800 円
新規図書室資機材設備費	130,000 円	275,965 円
新規図書室用図書教材購	208,000 円	559,983 円
既設図書室用 図書教材	780,000 円	1,263,815 円
図書室利用セミナー開催	260,000 円	49,263 円
紙芝居製作セミナー費	130,000 円	0 円
子ども文庫家賃	124,800 円	119,157 円
子ども文庫管理員人件費	171,600 円	196,404 円
学校図書室補助員人件費	39,000 円	29,443 円
子ども文庫改修費	390,000 円	260,200 円
調査調整派遣費	292,500 円	88,849 円
通信費	156,000 円	115,916 円
子ども文庫プロジェクト計	2,811,900 円	4,247,780 円

学校図書室(Hak Arn)整備 8ヶ所
Hak Arn No.34建設費(指定寄付分)
机・椅子・本棚等購入費
図書教材購入費 日本での購入分含む
邦語・タイ語図書教材買付・翻訳経費
利用促進セミナー2回開催
99年専門家派遣時間開催予定
事務所文庫スペース分
文庫管理者2名
各学校図書室休日開室人件費
子ども文庫本部(事務所文庫)改修備
現地へ出張 2月実施
当プロジェクト該当分(全通信費の19%)

●その他

頒布品仕入		105,724 円
イベント経費	200,000 円	261,429 円
スタッフ経費	2,500,000 円	2,441,824 円
その他計	2,700,000 円	2,808,977 円

絵はがき・布製品等買入費用
正月パーティー材料代・勉強会経費等
21名参加 7月30-8月8日実施

2. 会の運営 (プロジェクト外管理)	予算	決算	
<東京事務所経費>			
事務所家賃	480,000円	480,000円	水道光熱費含む
通信費	300,000円	88,053円	国内外電話 郵便代 (プロジェクト該当分を除く)
運搬費	50,000円	255,607円	対への図書等輸送料、紙芝居国内購入
事務費	100,000円	54,908円	事務用品代等
記録費		97,690円	コピー代・写真プリント代等
賃借料		60,858円	コピー機リース料
広報費	500,000円	392,454円	ニュース発行、パソコン印刷等
人件費	2,000,000円	1,401,883円	有給スタッフ給与・通勤手当・アルバイト交通
交通費	400,000円	0円	上記に含む
備品・消耗品費	50,000円	78,344円	パソコン部品・消耗品等
出張費		64,000円	プロジェクト調整のためのコピー出張費
諸会費		50,000円	JANIC団体会員費等
雑費	100,000円	93,021円	図書費 9,570円
			支払手数料 (送金手数料等) 80,375円
			教育研修費 1,000円
			雑費 2,076円
東京事務所経費 計	3,980,000円	3,116,818円	
<ラオス事務所経費>			
事務所家賃	187,200円	178,737円	事務所スペース分
水道光熱費	46,800円	25,396円	電気料・水道料・飲料水等
通信費	26,000円	64,469円	国内外電話 郵便代 (プロジェクト該当分を除く)
事務費	31,200円	38,251円	事務用品代等
記録費		64,847円	コピー代・写真プリント代等
人件費	468,000円	326,395円	現地事務所責任者 (スタッフ保険料含む)
福利厚生費		12,760円	
交通費	62,400円	30,789円	スタッフ・補助員バイクリ料代等
広報費		1,602円	取材費支払
備品・消耗品費	15,600円	37,010円	ファックス、パソコン消耗品等
修繕費		38,504円	事務所・事務機修理費
支払手数料		213,597円	送金受取手数料
雑費	23,400円	277,150円	諸会費・雑費 為替差損225,619円含む
ラオス事務所経費 計	860,600円	1,309,507円	
<その他>			
予備費	743,400円	0円	
□支出合計	28,200,000円	21,880,447円	
□当期収支差額		4,905,007円	
□次期繰越金	0円	8,125,603円	指定プロジェクト援助金前受金・前払を含む

社会的にも、経済的にもラオスが大きく変化のうねりにある中、本会の活動も、今後どのような展望を持つのか、模索が続く一年でした。この数年、極力抑制したプロジェクト展開を心がけているものの、実際には推進すべき事業はじわじわと増加しており、なかなか思惑通りにいきません。限られた財源の中で、優先順位をどのようにするのか、何回も話し合いが繰り返されました。1年間の収支では、収入については、年初予算の計画が達成されました。1年間の支援者が672名(団体含む)と、10%の伸びがありました。特徴的だったのは、企業、組織からのご支援が増加したことでしょう。これは指定寄付のシステムを明確にしたため、ご支援をいただきやすくなった成

果と思われます。

一方でこの数年続く傾向として、計画した図書の出版が予定通り進まない状況があります。98年も古典図書が出版されなかったことなどが、繰越金の増加理由となっています。管理経費では、東京事務所スタッフ2名のうち1名が無給ボランティアとして勤務したため、人件費の支出が予算を下回りました。

予算規模は拡大していますが、指定寄付が増加する方向となっており、臨機応変に使える予算は増加していません。今後は現地事務所も含め、一定枠の中で融通できる予算を確保し、よりニーズに合う弾力的なプロジェクト運営を可能にしていきたいと思います。

1999年活動計画

[活動理念と基本方針]

- ラオスの子どもたちが、ことば・文字を通じ主体を確立していくことを支援する。
- 新規事業は行わず、既存事業の維持と充実を図る。
- 2001年以降を見据えてこれまでの成果を検証し、事業の新しい方向性を探る。
- 事業の運営を現地の人々に引き継ぐことを視野に入れ、人材を育成する。
- 現地事業の自立をめざし、自主財源への移行を促進する。

[事業計画]

(1)出版プロジェクト

子どもたちの身近に本がある社会をめざして、ラオスの本の数を増やすとともに、絵本の質を高めることに重点を置いて出版活動に取り組みます。

- 『文字絵本3』挿し絵コンクール開催
絵本作家のわかやまけん氏の協力で審査を行い、結果を8月に発表。出版は2000年1月を予定。
- 絵本コンクール開催
(財)地球市民財団 助成事業
絵本制作ハンドブックを作り、応募者にセミナーを実施。日本で審査、優秀2作品を出版。
セミナー9月 審査12月 出版2000年1～2月
- 環境教育など、日本の私たちからのメッセージを込めた作品の出版にも取り組みます。
- 年度を通じ、計13点41,000～43,000冊を出版。(うち6点は昨年からの継続プロジェクト)
キヤノン(株)、CIDSE、(財)伊藤忠記念財団、石原静子氏、ラオスに環境の絵本を送る会 助成事業
- 「欲しい本は買う」習慣と出版流通の確立へ向けて、ラオスにおける書店経営の可能性を探る。

(2)図書箱・図書袋 配布プロジェクト

郵政省国際ボランティア貯金、(財)国際開発救援財団 助成事業

フォローアップを充実させ、運営ノウハウの確立を踏まえ、次のステップへの移行を検討。

- 新規配布は昨年度とほぼ同じ規模で実施。
移動図書箱 140冊×50箱(50校)
図書袋 70冊×100セット(2袋1セット50校)
- 配布セミナーとフォローアップを充実させる。

(3)子ども文化センター(CCC)

郵政省国際ボランティア貯金(株)ミクプランニング 助成事業

理念を再確認し、読書活動を中心に活動の充実を図り、自主財源・自主運営への道筋を探ります。

- 子ども文化センターの理念
 - ・図書室と読書活動を活動の基盤とする。
 - ・ものを作る楽しさ、体を動かす楽しさを通じて、自己表現力を身につけていける場とする。
 - ・あらゆる子どもに対して開かれた場とする。
- 理念、目的意識の共有化のため、各CCC責任者・スタッフと会議を開催。
- 図書室を充実させ、専門スタッフを育成。
- 経済面の支援から、教育のソフト面での支援へ段階的に切り替えていく。自主運営化へ向けて各CCCと協力し、政府や自治体など関係機関へ働きかけていく。各CCC責任者の運営管理能力の向上や情操教育活動に関わる専門知識の修得も大きな課題として取り組む。

●CCC活動の拡充とともに施設・備品を充実化。

・ヴィエンチャンCCC

ヴィエンチャン特別市教育委員会が運営に関心を示しており、同委員会が開設準備中の教育センターの敷地内に新しく施設を建設し、新たな活動を開始する方向で調整を進めます。この教育センターは、教員や学校図書室司書の研修センターとして計画されており、研修のノウハウ面での協力についても、委員会から当会に要請されています。

・ポリカムサイCCC

プログラムの拡充に伴い、旧施設の屋根を補修し、織り機などの備品を購入

・サヤプリCCC

スポーツ用品の整備

・ルアンパバーンCCC

敷地のフェンスなど、外構の整備

(4)子ども文庫・学校図書室

フォローアップの充実と人材育成に力を入れ、読書推進活動の成果をラオス社会にアピールする。

①子ども文庫(ラオス事務所に併設)

子どもたちが主人公の場としての魅力を保ち、学校図書室のセンターとしての機能を充実させる。

- 図書の実験を図り、読書活動を活性化する。

●絵本の読み聞かせや紙芝居、「おはなし」など、担当スタッフの能力や専門性の向上を図る。

●全国の学校図書室のセンターとなる。

②学校図書室

高校、教員養成学校への支援を充実させる。

●新規開設

・学校図書室の開設支援 16校

小中高校：8校（資材設備・図書・教材整備）

教員養成学校：8校（図書整備補充）

どちらも利用促進セミナーを実施。

・民間施設「子ども図書館」への支援

地域に根ざしてCCC的な青少年活動を行う施設への支援は初めての試み。7月完成、8月活動開始予定。(株)興伸 援助事業

●フォローアップ

学校図書室は、お絵かきや歌などの活動の場もある。本とともに、画材や文具なども補充する。担当教員から利用状況の聞き取りも行う。

既設33校+子ども文庫 計34ヶ所に実施

●学校図書室担当者の研修（7/19～7/24）

学校図書室活動の充実と読書推進活動の総合評価のための研修をラオス国立図書館と共同で開催。

(5)人材育成

郵政省国際ボランティア貯金 援助事業

ラオスの人々自身による文化の創造の応援のため、出版や情操教育分野で人材育成を続ける。

●支援すべき情操教育のあり方を見直す。

美術、音楽の他、身体表現も含めた総合的なビジョンを描く。

●専門家を派遣し、絵本・紙芝居づくりのワークショップを行い、作品の質の向上、編集能力の向上をめざす。(5月)

・派遣専門家候補：やべみつのり氏 長野ヒデ子氏 下中稔穂氏

(6)東京事務所

アークス 助成（人件費）

●会員の拡大

寄付やボランティア活動などによる支援者、活動への共鳴者を「会員」とし拡大を図る。

●メンバーの取り組み態勢

会の活動は「片手間ボランティア」を自負するメンバーによって担われている。それぞれの自立した市民生活を大事にし、一市民として活動しようという考えです。しかし、近年、高度な専門能力

や運営能力が求められており、関わり方を見直すべき時期にきている。

●自主財源確保のための収益事業

ラオスやラオス語関係図書の出版・販売など、会の特色を活かした収益事業を検討していく。

●専門性を深める勉強会

識字、絵本、図書館活動、児童館活動、情操教育などの勉強会を開き、専門分野の理解を深め、各分野の専門家とのネットワークづくりを進める。

●ボランティア参加の活性化

土曜日のボランティア活動日を活性化させる。

●広報活動・情報発信の強化

・ホームページ開設、英語版の活動紹介作成など。

●スタディツアーのあり方を再検討する。

●「絵本2000冊運動」

日本の絵本にラオス語の翻訳を貼付して送る活動を発展させ、学校や企業、地域のサークルなど、国内での参加のひとつの形として定着をめざす。

●イベント

・ラオス正月サバイディピーマイパーティ(4月) 実施

・国際協力フェスティバル (10月) 参加

・OTAふれあいフェスタ (10月) 参加

(7)ラオス事務所

●運営体制

マネージャー・会計・文庫・アシスタント・CCCの各担当担当の5名のラオス人スタッフで運営。将来の自立を視野に、専門能力向上をめざす。

●現地事務所スタッフ日本研修を予定。児童関連施設、図書館、子ども文庫の見学など。9月ごろ、2週間程度。

●現地での英語による広報活動の強化。

●ボランティアが参加できる態勢づくり

ヴィエンチャン事務所では、ラオス人のボランティアとともに、日本人の短・中期滞在型ボランティアの受入についても検討していきます。

●日本人スタッフの常駐化を検討。

●業務の効率化

・コピー機の導入

・図書配布や巡回のための自動車の購入

1999年度 ASPBラオスの子どもに絵本を送る会 予算(1999.1.1~1999.12.31)

■前期より繰越	7,000,000円	プロジェクト未払いを含みます (1998年の決算終了以前に立てたため、概算数値です)
■収入の部		
一般寄付	3,700,000円	個人寄付中心 プロジェクト指定がない寄付
プロジェクト援助金	15,500,000円	個人・団体によるプロジェクト指定の寄付
イベント収入	3,300,000円	正月パーティ スタディツアー参加費など
雑収入	450,000円	絵はがき 物品売り上げなど
□収入合計	29,950,000円	
■支出の部 換算レート: \$1=120円		
出版	6,060,000円	(\$50,500)
絵本作家育成	1,726,800円	(\$14,390)
移動図書箱 図書袋	3,852,000円	(\$32,100)
統括管理	1,008,000円	(\$8,400)
子ども文化センター(CCC)	2,908,800円	(\$24,240)
子ども文庫 学校図書室	4,230,000円	(\$35,250)
人材教育	2,088,000円	(\$17,400)
東京事務所経費	4,910,000円	
ラオス事務所経費	610,800円	(\$5,090)
その他	2,555,600円	
□支出合計	29,950,000円	
■収支		
繰越金	7,000,000円	
収入合計	22,950,000円	
- 支出合計	29,950,000円	
	0円	

総会を開催しました。

6月13日、ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会の第2回総会が、ライフコミュニティ西馬込で、約20名の参加のもとに行われました。

まずラオス通貨キップ(k)の価値が、98年初頭で\$1に対して約2,500kだったところ、年末に約4,000k、99年5月には約7,000kにまで下がり、経済的に人々が厳しい状況にあることを報告しました。

活動報告では、出版プロジェクトについては、発行の予定が遅れているものがあるが、作品の質の向上のために修正作業に時間をかけていることを報告。CCCについては、現地サイドでの自立化に向けた取り組みの困難さなどを伝えました。また、現在、学校で情操教育のカリキュラムが実現化する

動きの中で、ASPBのCCCでの実績にヴィエンチャン教育委員会などから関心が寄せられ、かつ、教員養成学校の図書室への本の支援にニーズが高まっていることを報告しました。

さらに、2000年以降の体制について、「片手間ボランティア」の現状と専門性向上の課題、現地の自立化について、模索している現状を示しました。

続いて、5月に実施した専門家派遣セミナーの講師、やべみつのりさんと長野ヒデ子さんから、セミナーの報告が行われました。

総会後の懇親会では、今後のASPBの方向についてなどの意見が出されました。そのひとつは、プロジェクトの実行にあたって、よりいっそうの背景分析が求められるという声が出され、ASPBの専門性向上の課題といえます。

東京事務所の動き 1999年3～5月

- 3月3日 専門家派遣セミナー打ち合わせ 運営会議
 6日 NGO活動推進センター会計講座に風間が参加
 14日 運営会議
 17日 専門家派遣セミナー打ち合わせ
 19日 国際建設技術協会によるラオス視察(野口同行)
 22日 通信13号発送作業
 24日 大田区国際理解講座 講師(チャンタソン)
 4月4日～17日 チャンタソンがラオス出張 日本青年
 会議所東海GTS委員会スタディツアー同行
 11日 運営会議
 18日 ビーマイパーティー
 25日 『文字絵本3』一次審査会
 28日 日本青年会議所東海GTS委員会来訪
 30日 運営会議
 5月7日～29日 専門家派遣セミナー
 (チャンタソン、森、赤井が同行)
 9日 運営会議
 12日 愛知県東海市立平洲中学校が修学旅行で
 事務所見学
 大田区国際交流団体懇談会(小川が出席)
 17日 運営会議
 23日 大阪府熊取町立熊取中学校が修学旅行で
 事務所見学

これからの活動予定

●イベント●

- 7/1～8/31 キックマン国際交流イベント共催
 「ラオスの織物展」
 7/2 ホアイホン職業訓練センター活動報告
 7/14 世界のしょうゆクッキング～ラオス
 8/4 ボランティア体験講座
 (いずれもキックマン東京本社)
 10/2・3 国際協力フェスティバル(日比谷公園)
 10/23・24 OTAふれあいフェスタ(平和島競艇場)
●土曜ボランティア活動日●(ASP事務所)
 7/3 7/17 7/24 7/31 8/21 8/28
 9/4 9/18 9/25 10/16 10/30
●日曜勉強会●(ASP事務所)
 7/11 「編集者が語る絵本づくり」
 (*変更になることもありますのでご確認ください)

●指定募金にご協力をお願いします！

前号でご案内した新しい指定募金に、5月までに33人の方から次のようご協力いただきました。

- ・絵本印刷×50口
- ・子ども文化センター×11口
- ・図書袋×10口
- ・学校図書室×1口

絵本は通常1タイトルについて3000冊から5000冊印刷します。600口で1タイトル分の印刷・配布が目安。みなさまのご協力をお願いします。学校や職場などで掲示していただいたり、お友達に紹介していただくと助かります。指定募金のチラシや会の資料が必要でしたら、送らせていただきますので、ご相談ください。



●大盛況！正月パーティ

ラオスのお正月「サバイディーピーマイ」パーティを4月18日(日)に開催しました。あいにくの雨の中、120人ものみなさんが参加されました。

お祝いに欠かせないラップ(ラオス風牛肉のたたき)をはじめ、10品ほどのラオス料理を前日から準備し、さらに、ラオス出張から戻ったチャンタソンが、本場の「なれずし」やちまきなどを直送。豪華メニューが並びました。

昨年から東京外語大でラオス語を教えているラオス人作家のウティンさんを迎え、厳かにして和やかなパーシーの儀式でパーティが始まり、プログラムの目玉は、「まちだ語り手の会」の増山正子さんによるラオスの昔話「おとこ山、おんな山」。『文字絵本3』挿し絵コンクールの第一次応募作品の展示も行われました。

約30万円の収益金は今後の活動に役立てていきます。ボランティアのみなさん、お疲れさまでした。遠くにお住まいのみなさんには、いつもご参加いただけなくてごめんなさい。

会場は今年も東京ガス大田支社のホールと社員食堂・厨房をお借りしました。ご協力ありがとうございました。

●夏休みに絵本2000冊運動を！

5月までにラオスに向けて発送された絵本は全部で27冊。目標まであと1973冊。夏休みに家族や地域でボランティア体験はいかがですか？学校や職場などでも周りの方に声をかけていただけませんか？日本から届く絵本をラオスの子どもたちは楽しみにしています。

絵本リストがまだお手元にはない方は、ご連絡ください。東京近郊にお住まいの方で、箱に詰めて送るほどではないけれど手元にリストの絵本があるという方、土曜日の午後に東京事務所ですいっしょに作業しませんか？事前にご連絡のうえ、絵本をご持参ください。